

■日時：平成26年3月10日（月） 午後2時～3時30分

■会場：府中市立ふるさと府中歴史館3階会議室

■出席者：（敬称略）

[委員] 亀山 章、坂詰 秀一、藤井 恵介、松本 三喜夫、大津 貞夫、大室 容一、  
永山 健一、濱中 重美、北島 和一、町田 昌敬、中川 健介

[事務局] 後藤部長、江口課長、黒澤課長補佐、塚原係長、荒井主任、小林  
（以上、文化スポーツ部ふるさと文化財課）

[コンサルタント] 株式会社歴史環境計画研究所 小野

■欠席者及び代理出席者

[委員] 長島 剛

武藤 学 （代理：J R A東京競馬場 後藤課長）

今坂 英一（代理：市生活環境部経済観光課 加藤課長）

青木 浩一（代理：市都市整備部 雫石次長）

■傍聴者：なし

■議事日程

1 開 会

2 文化スポーツ部長挨拶

3 議 題

(1) 国史跡武蔵国府跡保存管理計画について

(2) その他

4 閉 会

■配付資料 『国史跡武蔵国府跡保存管理計画』（製本版）

■会議録

1 開 会

事務局の司会により、午後2時に開会した。

2 文化スポーツ部長挨拶

3 議 題

(1) 国史跡武蔵国府跡保存管理計画について

<会 長>

それではまず、事務局より資料の説明をお願いします。

<事務局>

[事務局より、配付資料に沿って説明]

<会 長>

ありがとうございました。今回は最終回ということで、完成した計画書の内容をご確認いただくとともに、来年度以降の国司館地区保存整備に関するご意見・ご質問等をお受けしたい。

<A委員>

「国司館地区」という名称について、国司館と府中御殿は全く違う時代の遺跡であるが、一つの史跡として扱われる、ということか。

<会 長>

史跡の本質的価値に照らし合わせ、「国司館地区」という名称を採用したものである。府中御殿の取扱いについては今後の課題と言える。

<事務局>

史跡の本質的価値はあくまでも国司館にある、ということで、保存管理計画における名称としては「国司館地区」を採用した。府中御殿については資料4 1 ページにあるとおり「本質的価値を支える諸要素」と位置付けた。

<A委員>

仮に、古代国司館が無かったとしても、府中御殿の歴史的価値は高いのではないか。

<会 長>

今後、活用を進めていく中で、大國魂神社の東照宮との連携などを検討する必要がある。

<事務局>

国司館地区の整備を行う際には、史跡の案内や解説の中で、府中御殿の歴史的価値についても触れるよう検討していく。

<A委員>

国史跡武蔵府中熊野神社古墳についての記述が少ないと感じたが、武蔵国府の成立を考える上で重要な古墳ではないのか。

<会 長>

国府と熊野神社古墳の関連性は強いと思われるが、国府との直接的な関係が証明されているわけではない。また、両者はそれぞれ別の史跡として指定を受けているものである。

<B委員>

大変よくまとまっていると思う。活用に関して、市民・行政・専門家の協働で行っていくことは大変良い。

本史跡の重要性や、市街地にあるという立地条件等を鑑みれば、慌てて拙速な整備をするべきではないと思う。今後新たな調査成果が出れば、史跡の評価も変わっていく可能性がある。

<会 長>

都市計画の動向なども含め、保存管理計画書として、将来に含みを持たせた書き方になっていると思う。

さて、今回は今年度の最終回であり、総括ということで、お一人ずつご意見をいただきたい。副会長からどうぞ。

<副会長>

資料に、JR府中本町駅の1日の乗車人数が17,000人とある。これだけ多くの人が利用する駅であり、史跡整備をするからには地域の活性化に繋がるものでなければならない。

文化財としての価値は「国司館」にあり、知名度やインパクトでは「府中御殿」が勝るものであり、府中市民としては「国司館・府中御殿」としてもよいくらい、どちらも大切なものだ。一度見たらそれで終わり、というような施設ではなく、「利用する」ことを重視し、リピーターを生み出す工夫を。

<C委員>

市民として、JR府中本町駅前が現在更地の状況であることを寂しく感じている。地元に住む人々が愛着を持ち、応援してもらえるものにしてほしい。一度来たらもう二度と来ないような整備ではなく、駅前の賑わいと魅力を入れ込んだ設計をお願いしたい。計画の文言だけで終わることのないように。

<D委員>

保存管理計画としては、長・中・短期的な計画の配慮がなされている内容だと思う。一度整備を行えばそれが恒常化されるが、中期的にプラスしていけるようなものを今後考えていく必要がある。

短期的には、京王線府中駅～大國魂神社～府中本町駅の動線の整備を進めていただきたい。

<E委員>

史跡の重要性は十分理解した上で、地元市民としては、駅前としての活性化や利便性について考えていただきたいと思う。史跡の活用における地元市民としての役割もわかっているが、地域の活性化が約束されないと協力も難しい。

<F委員>

保存管理計画としてすっきりまとまったと思う。史跡整備の成功例というのは全国的に見ても決して多くはない。十分に検討を重ね設計を進めてほしい。是非、「本物」と呼べる整備を行っていただきたい。市民が、自分たちのものであるという意識を持ってもらえるような方策が必要である。市役所内の他の関係部署との調整も不可欠である。

<B委員>

従来型の史跡整備ではない、来訪者が何度も足を運びたくなるような整備を行っていくために、沢山のアイデアが必要である。文化庁が「ちょっと待て」というくらいの斬新な案を出し、直接交渉して行ってほしい。

<A委員>

市の景観審議会に長く関わってきたが、府中本町駅周辺は、鉄道の敷設で地形を断ち割っている関係で、空間的に決して美しいとは言えない。あの空間を良いものにし

ていくためには、史跡指定地内だけでなく駅周辺も含めた、府中本町駅前の全体像をどうしていくのか、という討議をしていかなければならない。

<会 長>

A委員の指摘にもあるように、今後は、史跡整備の枠を飛び越えた話にも展開していくことになるだろう。

本史跡の整備活用に関しては、東照宮の存在、すなわち徳川家康と府中市の関係において、大國魂神社の存在が極めて重要である。位置的にも、国衙と国司館の中間にあたる。これを踏まえた上での今後の展望はどうだろうか。

<G委員>

家康御殿に関連して東照宮も脚光を浴びるようになってきたが、大國魂神社で家康公を中心としたお祭りはないのが現状で、今後新たなイベントを立ち上げていけるかどうかは課題である。

周辺商店街を含めたビジネスモデルとしては、伊勢神宮の「おかげ横丁」が観光拠点となっている良い例がある。

リピーター創出のためにも、整備をして終わり、ではなく、保守点検や更新のための予算を確保していただきたい。

<会 長>

ランニングコストについては、一過性のもので終わることのない活用を進めていくためにも、行政として予算を認めていただきたい。文化庁からの制限等もあるかもしれないが、新しい方向・方策を検討していきたいと思う。

ありがとうございました。

## (2) その他

本協議会は来年度も継続する。来年度第1回協議会は、6月～7月の開催とする。日程については、全委員の予定を確認したうえで調整することとなった。

## 4 閉 会

午後3時30分をもって閉会となった。